

【講演記録】

「『東亜同文書院大学から愛知大学へ』展示会・講演会」の 全国展開をプロデュースして

愛知大学豊橋研究支援課課長 田辺 勝巳

(2016年8月27日 名古屋市博物館)

皆さん、こんにちは、愛知大学豊橋研究支援課の田辺でございます。前学長、名誉教授がお話した後ですので、なかなかのドキドキ感があるのですが、実は一番ドキドキしているのは、今日の会場に何名の方がご来場になられているのか。年に一回の恒例行事でございます。多くの皆様、本日はお集まりいただき誠にありがとうございます。ほっと致しております。ありがとうございます。

今回の「愛知大学記念館コレクション展—東亜同文書院の45年、愛知大学の70年—」開催に関しましては、6月に決定しました。主催は、東亜同文書院大学記念センターで、豊橋研究支援課の管轄でございます。

1993年に東亜同文書院大学記念センターが発足致しました。1998

年に豊橋校舎にあります本館が新本館に移転するタイミングで大学記念館が設立されました。この年に文化庁の有形登録文化財に登録され、今年で築108年の建物でございます。その大学記念館に記念センターがあることから、研究支援課が記念センターおよび大学記念館を管轄しており、現在私の業務となっております。

2006年に文部省の補助金で、研究内容をオープンに広げるという5年間の補助金「オープンリサーチセンター事業」に採択されました。代表者は当時センター長の藤田名誉教授でいらっしゃいます。東亜同文書院をめぐる総合的研究を促進しつつ、情報公開をしながら、大学記念館を少しずつ大きくしていったという流れでございます。

そして5年間のプロジェクトが終了致し、1年間お休みの後、2012年に再度、文部科学省に申請したのが私立大学戦略的研究基盤形成支援事業で、5年間のプロジェクトでございます。研究代表者は当時センター長の馬場名誉教授で、藤田名誉教授、小生で申請し採択され、今年度が5年目の最終年でございます。2006年から今年度までの10年間で、記



東亜同文書院大学記念センターと大学記念館の推移

1993年 東亜同文書院大学記念センター発足

1998年 豊橋校舎本館が新本館に移転後、大学記念館設立
文化庁有形登録文化財に指定

2006年 文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業オープン・リサーチ・センター整備事業に選定

《情報公開と東亜同文書院をめぐる総合的研究（代表者 藤田佳久）》

2012年 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（研究拠点を形成する研究）に採択

《東亜同文書院を軸とした近代日中関係史の新たな構築（代表者 馬場毅）》

愛知大学 豊橋研究支援課

2

念センター、大学記念館の発展期だったと捉えることができるかと思います。

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に申請する際、構想調書の研究計画の研究方法、研究体制に（一部抜粋ですけども）次のように記載をさせていただきました。

「本研究では研究代表者のもとに既存の愛知大学東亜同文書院大学記念センターの組織を利用して、あわせて書院の歴史と愛大の歴史

に関する充実につとめ、センターを博物館相当研究施設に発展させる」。採択後は、これがミッションとしてスタートしたのでございます。そのミッションの中で研究を進めながらその内容をまとめていくというだけでなく、大学記念館としての施設を公開したいというのが私の思いでありました。そこで色々なことを働きかけました。

まず 2011 年、この時に愛知県美術館からお声がかかりました。「あいちトリエンナーレ」の東三河の豊橋地区でも開催が決定し、大学記念館も会場として利用したいとの要請がありました。そして 2012 年には同窓会の 60 周年事業として、ホームカミングデイ公演『愛知大学創立者本間喜一物語はじまりの手紙』が大学記念館 2 階で演じ

られました。2013 年には「豊橋のスタンプラリー」ということで夏休みに子どもたちを楽しませる取り組みがなされました。2 階の元学長室に入りスタンプラリーのスタンプを押し、学長の椅子に座って満足げにポーズをとる子どもたちの写真です。昨年 2015 年には、

「JR さわやかウォーキング」ですね。これは豊橋の観光コンベンション協会をとおして大学記念館を見てもらえるコースに組み込めないかとオファーしたところ通りました。そして、今年も 10 月 23 日の日曜日、

大学創立記念日 11 月 15 日の少し前でございますけれども 2 度目のコース設定がなされました。受付にチラシがありますのでよろしかったらお受け取りください。

これがトリエンナーレの写真です。古い建物の展示室天井に蝶々が貼ってあるのですね。現代美術でありまして私どもの創造を超え

ることもなされるのです。その拡大写真がこちらです。これは図鑑の上にまた蝶々の絵柄を同じように作って広げたもので、講義用の椅子の上にも並べてあります。築 100 年の古

文部科学省
私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

構想調書：（＊平成24年度申請時）

2.研究計画・研究方法 ①研究体制（抜粋）

本研究では研究代表者のもとに既存の愛知大学東亜同文書院大学記念センターの組織を利用し、

.....

あわせて、東亜同文書院史・愛知大学史に関する充実につとめ、愛知大学東亜同文書院大学記念センターを、博物館相当研究施設に発展させる。

3

大学記念館のコラボレーション活用

2011年 あいちトリエンナーレ「現代美術展 in とよはし」会場（愛知県）

2012年 同窓会創立60周年全国総会・記念祭：ホームカミングデイ公演『愛知大学創立者本間喜一物語はじまりの手紙』

2013年 『とよはしパス・電車スタンプラリー2013ートヨッキーの夏休み絵日記ー』とよはし市スタンプラリー会場（豊橋市年計画部年交通課）

2015年 JRさわやかウォーキング『「軍都」と呼ばれた豊橋市の歴史遺産を訪ねて』訪問地選定

2016年 JRさわやかウォーキング『歩いて巡る豊橋の歴史～創立から70年を誇る愛知大学記念館を訪ねて～』訪問地選定（10/23日）

4

2011年 あいちトリエンナーレ「現代美術展 in とよはし」



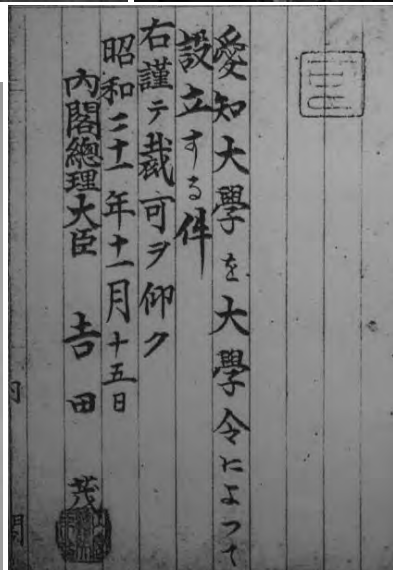
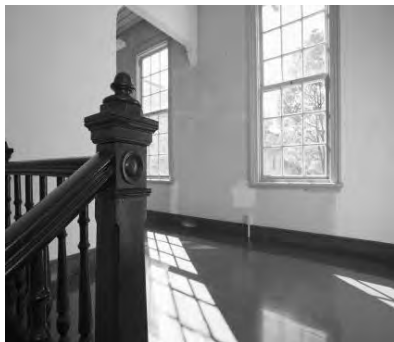
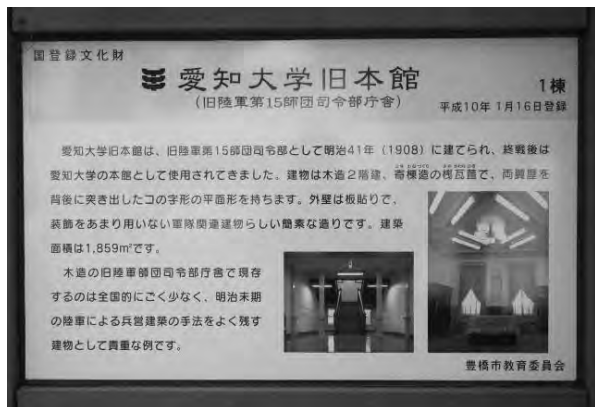
5

い施設を有効利用し、トリエンナーレだからこそその広報もあり、1か月間に何百人もの方がお見えになりました。これは、JR さわやかウォーキングですね。愛知大学記念館は年間、私が担当する前は2,000名ぐらいの訪問者でした。さわやかウォーキングでは、朝8時半から午後1時半ぐらいまでの間に1,234名の方がいらっしゃいました。いかにJRの力が凄いかと。趣味として歩く方が多いことと、年齢層の高い方が多いのかなと思いましたが、嬉しいですね。こんなちっちゃな子が家族連れでいらっしゃるのですね。この子たちが将来、愛知大学に来てくれたらいいな、と思うのですが、このコースは、愛知大学がスタート地点で、愛知大学前駅で降りた方が2,000名を超えました。この企画で豊橋校舎を知っていただけたのですね。その上で大学記念館に入った方々が1,234名。これがそのときの旧学長室の写真ですけれども、凄い人数でしょ。床が落ちたらどうしようかなと心の中では思ったのですが……。大学記念館というところをどうするのが私の仕事です。概要を簡単にお伝え申し上げたところで、今から大学記念館の簡単なDVDを見ていただきます。

大学記念館の前に飾ってある看板でございます。ここが旧学長室ですね。その昔陸軍第15師団長室でした。かつては後に昭和天皇の皇后さま香淳(こうじゅん)皇后になられた良子(ながこ)様のお父様、久邇宮邦彦王(くにのみやくによしおう)が第15師団長をなされて、ここにおられました。愛知大学創立後は本館となりました。私は



1989年、平成元年に職員となり、こちらにも出入りしておりました。この辺の木の形は昔からですね。その後改修をし、今ではこういう赤い床になっています。ガラス越しにみえるのが大学創立50周年事業で建てられた新本館でございます。今回お渡ししていますチラシの表紙の写真手前が旧本館、現在の大学記念館です。昔の作りですけど107年前からこの造りです。ここは本間喜一特別展示室でございます。今回、フェンシング、リオオリンピックでは残念な結果でしたが本間先生がフェンシング協会会長をなされておりました。本間先生がかつて最高裁判所初代事務総長をなされておりました。その時でございますね。これは設立認可証明書です。吉田茂総理大臣というのは歴史上の人物でございます。吉田茂の名がぎざまれていることから「愛知大学創立はその時代なんだ」、と今の学生に伝わればとの思いでこの資料を使わせてもらっています。これは、中日大辞典のカード。このカードはここに写っているものしか残っていないのですね。本物を飾っております。この扁額「一道同風」はかなり大きなもので、中国の大総統、黎元洪が東亜同文書院創立20周年に送られたものです。今回、レプリカでございますが、名古屋市博物館3階ギャラリーにて展示しております。東亜同文書院の創立20周年ですから1920年、100年以上前になりますね。同じ道を同じ風を受けて進んでいこうということでしょう。日中関係を良い方向にもっていきたいという考えであったと思っております。そしてこれが学籍簿、成績簿ですね。東亜同文書院の卒業生のものですが、愛知大学にすべて保管されています。この辺りは孫文の書ですね。



これも今回展示をさせていただきました。また第 29 代総理大臣犬養毅の書です。そしてこの写真が大学記念館を東側から撮っている写真で、私の好きなアングルです。現在の本館から私が撮った写真でございます。歴史を感じ、現実から離れてほっとする景色ですね。この大学記念館でございますが、無料でオープンしており、できるだけ皆さんに使ってもらいたいと考えております。そして、創立 70 周年記念事業の一環として今年度中に改修をし、私の思いとしましては、来年以降はできれば施設貸出しをして皆さまに利用いただける愛知大学にしたいなと思っております。大学はそういうことやって少しでも地域の皆さまとの距離を近づけ、大学のブランドアップにと思っております。

今回の講演テーマ「講演会・講演会の全国展開プロデュース」でございます。先ほど申しましたように 2006 年から全国で展示会、講演会を開催しております。2006 年から横浜、東京、弘前、福岡、シカゴ、神戸、京都、米沢、名古屋、富山。この間、藤田名誉教授が中心になされました。2012 年から新しいプロジェクト文科省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業でございます。私が担当になり沖縄からスタートして本日の子古屋まででございます。

この資料は、入場者数の推移です。入場者数については本学開催の場合、どんなに頑張ってもしているのですが、それ以外の地方でやるのはもっと大変なのですね。来場者は富山 200 名、

『東亜同文書院大学から愛知大学へ』 展示会・講演会					
2006年	横浜	2009年	神戸	2012年	沖縄
2007年	東京	2010年	京都	2013年	長崎
2008年	弘前	2010年	米沢	2014年	岐阜
2008年	福岡	2010年	名古屋	2014年	広島
2009年	シカゴ	2011年	富山	2015年	松本
				2016年	名古屋

沖縄 130 名、長崎 200 名、岐阜 120 名、広島 280 名、松本 220 名でした。資料左側見てもらいますと開催期間を記載しています。何日間で開催したか。富山は 2 日間、沖縄 2 日間というように従来 2 日間開催をしていたのですが、ふと思ったのが、「たった 2 日間だけでこれだけの労力はコストパフォーマンスが合わないな」と。そこで長崎は先行パネル展を 2 週間いたしました。広島も 1 週間開催しました。昨年の松本にしましては先行パネル展を 3 週間やって、本番のところで一週間開催しました。そして資料の講演者、OB の欄がございます。実は地方の方の来訪者を集めるためには先輩方のお力が大変助かると

開催年	会場	会場立地	他の催し	期間	入場者数	講演者 (OB)			講演者 (OB 以外)
2011年	富山 富山国際会議場	○	△	2日	200名	井上秀弘氏 (富山)	宮田一郎氏 (福井)		
2012年	沖縄 沖縄産業支援センター	×	△	2日	130名	大城立福氏 (沖縄) [芥川賞作家]	百出勝彦氏 (沖縄) [沖縄放送協会会長]		
2013年	長崎 長崎県美術館	○	○	2週間(先行パネル展) +1日	200名				橋山宏孝氏 (元長崎シーボルト大学教授)
2014年	岐阜 岐阜市文化産業交流センター	○	○	1日	120名				
2014年	広島 広島県立美術館	◎	○	1週間	280名	宮田一郎氏 (福井)	有森茂生氏 (岡山)		
2015年	松本 県の森文化会館 松本市美術館	○	◎	3週間(先行パネル展) +1週間	220名	祖父江哲一氏 (松本)	熊谷達三氏 (松本出身)	可児光治氏 (愛知)	小松秀郎氏 (松本市文学館前館長)
2016年	名古屋 名古屋博物館	○	◎	1週間					

ということですね。そのエリアにいらっしゃる著名な先生や著名な OB をお願いしております。富山は井上弘先生（東亜同文書院 46 期）ですね。沖縄では芥川賞作家の大城立裕先生（東亜同文書院 44 期）。大城先生は体調の関係から最初お断わりになられて、藤田名誉教授がお手紙を数通送られて口説いた結果、「講演はここ 20 年間していないけども最後の講演として引き受けるよ。」と快諾された経過があります。そのようなビッグネームですので沖縄では何回も新聞記事になったのです。そのおかげで愛知大学の名前が広まっていないうちにもかかわらず 130 名も参加されました。沖縄県税理士会会長が愛知大学の卒業生の百田勝彦さん（愛知大学法経学部経済学科昭和 40 年卒）、友利博明先生（愛知大学大学院経営学研究科経営学専攻昭和 58 年卒）と 2 代続けてなられています。これも凄いことだと思います。広島では、今日いらっしゃっています OB で岡山県出身の有森さん（愛知大学法経学部法学科昭和 52 年卒）に、松本では祖父江さん（愛知大学法経学部経済学科昭和 37 年卒）に、元松本文学館長の小松先生に講演をいただきました。やはり関係のある講演者がいらっしゃるによって皆さんが興味を持たれる。そこから愛知大学、東亜同文書院大学のことを知っていただく、そんな流れに転換をしてきたということです。

長崎が一番印象に残っています。大きな写真でお見せしますが、これが長崎県美術館で

す。中に運河がありまして凄くお洒落なところ。こちらが運河ギャラリーで、その向こう側がこちらの情景なのですけれど。この 2 階を講演会場としました。事前の 3 週間はこちらの運河ギャラリーに展示をしました。スタッフとし

て頑張ってくれている森と二人で話し合いまして、この大きな垂れ幕「東亜同文書院大学と長崎、そして愛知大学へ」をここに貼らせてもらいました。これは森が作成しました。PC ソフトはワードで作成し、本学の拡大印刷機で 13 メートルにし、彼が飛行機の中に持ち込んで長崎まで運

びました。掲示物とガラスとの空白の幅が数十センチしかないのです。体が通るかどうかの状況の中に森は細いものですか何とかピンを留めて展示できたのです。これが 13 メートルなんですね。何がお話したいかと言いますとこの裏のパネルが通常掲示するところな

2013年 長崎：長崎県美術館



2013年 長崎：長崎県美術館



のですが、ガラス越しにみえる通常掲示する反対側に掲示すれば、隣の建物にきた来館者がガラス越しに見ることができるという狙いですね。お金は私と森のサービス残業と紙代だけです。その結果、3週間事前告知ができました。これが長崎の講演会場です。今日の会場とあまり変わらない来客者がお見えになりました。その後、研究員の武井がギャラリートークをしたところ

です。会場には東亜同文書院の卒業生の方のご子息、関係者が「東亜同文書院のアルバムがありますよ」と持参されたり、オーラルヒストリーを話されたりしました。展示に関しては、長崎と東亜同文書院の関係性、長崎と上海、などのパネル資料を新たに作成し、九州の皆様を惹きつけるものにしました。詳細はお手元のパワーポイント資料をご覧ください。九州と上海は近いからこそ、こんなにも大勢書院関係者がいたんだと。同じく愛知大学入学生、かつては九州からいらっしゃる方が大勢いらっしゃいました。昭和47年から50年の愛知大学入学生は長崎だけで30名、福岡も54名いらっしゃいました。今は10名いるかないかという数ですが…。そう思うと愛知大学、その頃は全国に広がりがある大学だったということがわかります。

岐阜会場では、展示会は狭い会場でしたので、講演会を別階で開催しました。講演会場にもパネル展示をしました。

展示会場をそこにした経緯は、隣の会場で高校生向けの大学展を実施することを知ったことです。高校生にアピールできるかなと思い、その企画に合わせその日を狙いました。学部紹介パネルを作成し、大学史の内容を踏まえたものを展示しました。本学の強み

を知ってもらいたい、差別化ができればとの思いからです。というのも入試広報としての学部紹介は、どうしても18歳を見て書いてしまうもので薄い情報となってしまいます。

2013年 長崎

長崎と東亜同文書院

東亜同文書院(大学)の新入生が日本から上海へ向かう際の出発地は、ほかならぬ長崎であった。大陸への玄関先である長崎(県・市)と東亜同文書院との縁は深いものがある。

1901年の東亜同文書院誕生から1945年日本敗戦による閉校まで、東亜同文書院(大学)には約5,000名の学生が学んだが、九州では福岡県出身者が345名と最も多く、第2位が長崎県出身者で258名であった。以下、熊本県207名、鹿児島県199名と続く。

いっぽう、長崎は書院生にとって、東亜同文書院が度重なる戦禍に見舞われた際の避難場所ともなった。まず、1913(大正2)年に中国で勃発した「第二革命」では校舎が被弾・炎上したため、同年8月から10月まで、現在の大村市にある正法寺と本経寺を借用して仮校舎とした。



11

2013年 長崎

九州・山陽地方出身者の多い愛知大学入学生

1946(昭和21)年11月愛知県豊橋市(旧陸軍予備士官学校施設)に設立された愛知大学には、敗戦後海外引き揚げ学生の受入れを目的の1つとして設立した。上海の東亜同文書院大学を中心とした海外で学んだ学生や、県外出身者も多く入学した。なかでも大陸に近い、九州や山陽地方の出身者が際立っていた。

九州からの県別旧制愛知大学への入学者数
(1947～50年入学)
長崎30名、福岡54名、佐賀24名、熊本29名
大分30名、宮崎7名、鹿児島30名、沖縄1名



12

2014年 岐阜：岐阜市文化産業交流センター



13

広島では広島県立美術館で開催しました。これは美術館の入り口ですが、このスクリーンより大きなパネル看板が7万円で作れました。広島県立美術館前のバス停から真正面に見えるところに看板が貼られたこともあり、バス乗降者やバスを待つ方に広報できるのかと思ひまして対応しました。2週間の期間がありましたので大学広報になったと思います

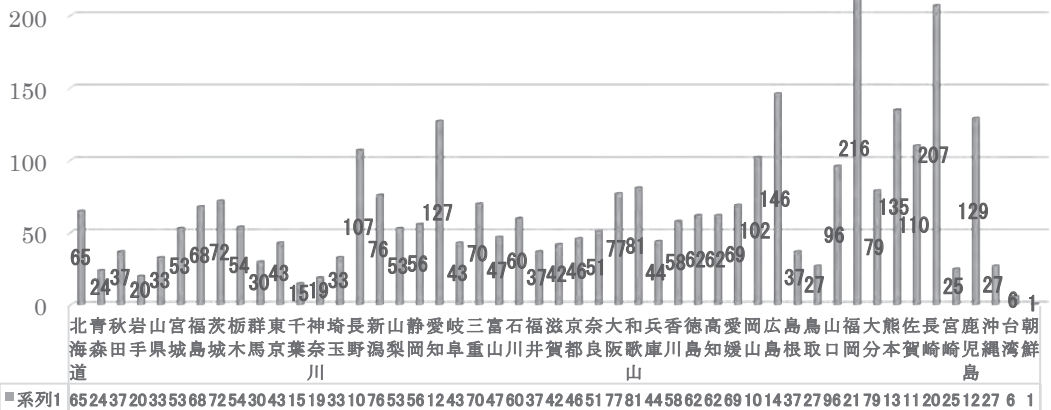
2014年 広島：広島県立美術館



14

人数

東亜同文書院 県別入学者

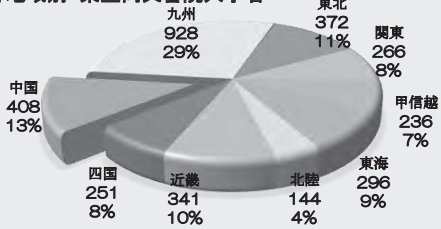


愛知大学 AICHI UNIVERSITY

15

2014年 広島

出身地域別 東亜同文書院入学者

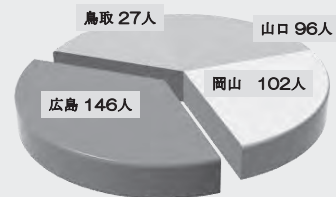


愛知大学 AICHI UNIVERSITY

16

2014年 広島

中国地方出身県別 東亜同文書院入学者



愛知大学 AICHI UNIVERSITY

17

ますし、思い出のある会場ですね。展示につきましてもう少しお話ししたいと思います。過去のデータ等調べてみますと、東亜同文書院入学者のうち広島出身者がすごく多いのですね。データ等をパネルにして発表しました。

これらは、入学者数に関するエリアごとの数でございます。愛知大学は東海エリアでご

ざいますが、東海エリアは10%をきっていますし、関東もきっています。やはり九州が多かった。九州、四国、中国地方出身者が多かったことが分かるかと思えます。県ごと

2014年 広島

広島県と東亜同文会、東亜同文書院のつながり



愛知大学 AICHI UNIVERSITY

1899（明治32）年4月から11月まで、近衛篤磨は欧米を中心とする海外視察の旅に出ました。その帰路、清国に到着した近衛は、上海から長江をさかのぼり南京に到着、10月29日に清朝高官で兩江総督の地位にあった劉坤一と会見しました。会見の席で近衛は東亜同文会の趣旨とあわせて、南京に学校を設立する考えを述べ、万事に相当の便宜が与えられるよう依頼したところ、劉坤一から「できるだけ便宜を図りたい」と快諾の返事を頂きました。

日本へ帰国後の同年12月末、近衛は各府県知事・府県議会議長あてに南京同文書院への勧誘状を発送しました。そのなかでは南京同文書院設立の意義と教育内容が述べられるとともに、各府県から毎年2～3名以上の学生を派遣することが要望されています。それに関する具体的な内容は、①学費は1人につき年間240円の予算、②中学校（旧制）卒業者もしくはそれと同等以上の学力を有する者、という要望でした。

このうち、①学費については、例えば同時代の慶應義塾大学部の年間学費が36円（『東京遊学案内』、1900年4月）だったことを踏まえれば、大変高額だったことが分かります。

しかしながら、近衛の各府県に対する学生勧誘は翌年度の予算確定後だったため、それに応じた県はほとんどありませんでした。そのなかで広島県は再度県議会を開催し、最初に県費留学生の派遣を決定しました。近衛は1900年5月に広島市で演説を行なった際、「誠に同文会前途の吉兆とも云ふべき次第なり」と述べ、その時の広島県の対応を高く評価しています。この動きは、翌年には全国の各府県へ広がりますが、その背景には日清戦争後、日本人に清国への関心の高まりが生じたことがあったといえます。

南京同文書院は1900年5月に開院式が行なわれました。学生は『沿革史』（東亜同文書院学友会、1908年）によれば15名であり、このなかで広島県派遣生は御園生深造、谷原孝太郎の2名でした。ほかには熊本県派遣生3名、同県からの自費生1名、農商務省海外実務練習生2名、東亜同文会からの留学生5名、岡山県の豪商・野崎武吉郎の給費生2名という内訳でした。

18

ですと岡山、広島が…。広島との繋がりといえば、藤田名誉教授からお話があったと思いますが、実は近衛篤磨氏が太平洋戦争の後、日本への帰国の途中、清国に立ち寄り、色々な話をされてきたと。先方からは日本人学生を受け入れてほしいということで近衛は日本に帰国後、各都道府県の知事、議長あてに南京同文書院の勧誘状を発送しました。その中で南京同文書院設立の意義と教育内容が述べられるとともに各府県から毎年2、3人以上の学生を派遣することを要望されています。この時、具体的には学費年間240円。中学校卒業生もしくはそれと同等のものと書いてあるのですね。実はこの当時、慶應義塾が年間学費36円だったのです。比較するとどうかということですね。この年近衛が各府県に学生勧誘をお願いしたものの、翌年度の予算確定後であったため、応じた県がありませんでした。その中で広島は再度、県議会を開催し最初に県費留学生を派遣してくれました。広島はそれほど温かい県であるということも理解でき、また歴史の掘り起こしの重要性を知ったところでございます。

松本会場です。松本には立派な建物がいくつもあります。旧松本高等学校でして、ここが旧校長室で、現在「復元校長室」と呼ばれています。実はこの松本が私にとって一番の悩みでした。愛知大学には毎年入学生がいますが、人口が十数万人しかないところで展

示会、講演会を開催し成功できるかどうか、とても弱気な思いでありました。当時の佐藤学長から「あがたの森」について情報をくださいましたので、松本を何度か訪問し現

2015年 松本：あがたの森文化会館（旧松本高等学校）復元校長室 先行パネル展



9月9日～30日に、あがたの森文化会館（旧松本高等学校）の復元校長室にて「先行パネル展」を開催しました。旧松本高等学校復元校長室を初めて展示利用に許可された当センターにとつて、数百名の来場者の方々に本学のルーツと小岩井淨を知ってもらえた意義ある催しとなりました。

愛知大学 AICHI UNIVERSITY



19



東亜同文書院大学から愛知大学へ

松本展示会・講演会
10/1～10/4 於松本市美術館

愛知大学創立者の一人小岩井浄は、一八九七年、長野県松本市に生まれました。英仏語が得意で外交官を志願していたが、中国旅行で民衆の悲惨な現実を知ったことが、社会意識へと変遷していった。

小岩井 浄

愛知大学創立者の一人小岩井浄は、一八九七年、長野県松本市に生まれました。英仏語が得意で外交官を志願していたが、中国旅行で民衆の悲惨な現実を知ったことが、社会意識へと変遷していった。

先行パネル展 開催中

9/9 週～9/30 週
あがたの森文化会館/復元校長室

入場無料

お問合せ 愛知大学東亜同文書院大学記念センター ☎0532-47-4139 FAX.0532-47-4196 MAIL.Toa@mLaichi-u.ac.jp

愛知大学創立者の一人小岩井浄は、一八九七年、長野県松本市に生まれました。英仏語が得意で外交官を志願していたが、中国旅行で民衆の悲惨な現実を知ったことが、社会意識へと変遷していった。

愛知大学創立者の一人小岩井浄は、一八九七年、長野県松本市に生まれました。英仏語が得意で外交官を志願していたが、中国旅行で民衆の悲惨な現実を知ったことが、社会意識へと変遷していった。



東亜同文書院大学から愛知大学へ

松本が生んだ小岩井 浄～書院教授から愛知大学長へ～

10/1 週～10/4 週 松本市美術館/2階多目的ホール 先行パネル展 9/30 週まで あがたの森文化会館/復元校長室

愛知大学創立者の一人小岩井浄は、一八九七年、長野県松本市に生まれました。英仏語が得意で外交官を志願していたが、中国旅行で民衆の悲惨な現実を知ったことが、社会意識へと変遷していった。

一愛知大学

1946年、東亜同文書院大学最後の学長小岩井浄、小岩井浄が書院時代の同僚で、愛知大学創立者の一人小岩井浄は、一八九七年、長野県松本市に生まれました。英仏語が得意で外交官を志願していたが、中国旅行で民衆の悲惨な現実を知ったことが、社会意識へと変遷していった。

お問合せ 愛知大学東亜同文書院大学記念センター ☎0532-47-4139 FAX.0532-47-4196 MAIL.Toa@mLaichi-u.ac.jp

愛知大学創立者の一人小岩井浄は、一八九七年、長野県松本市に生まれました。英仏語が得意で外交官を志願していたが、中国旅行で民衆の悲惨な現実を知ったことが、社会意識へと変遷していった。

愛知大学創立者の一人小岩井浄は、一八九七年、長野県松本市に生まれました。英仏語が得意で外交官を志願していたが、中国旅行で民衆の悲惨な現実を知ったことが、社会意識へと変遷していった。

地調査をしました。松本は文化の街ですね。これはという催し会場は1年前から抑えられており、私どもが借りる所が全然なかったのです。何かいい所がないかと相談していたら、「愛大さんだったら寮歌祭で先輩方が頑張っていられっしやるので、「あがたの森」の中にある復元校長室を調整しますよ。」と。バスで来る観光客は、復元校長室に必ず立ち寄られるスポットで、過去に一度も貸したことがないそうです。「それはありがたい話

2015年 松本：松本市美術館



愛知大学



です。」と調整のうえ、了解を得ることができました。パネルを持参し、先行パネル展として3週間、開催しました。展示パネルだけでは伝わらないものですから、松本の地方新聞「市民タイムズ」がありまして、かつて松本出身の小岩井浄第3代学長を連載された時期がありました。そこで市民タイムズにアプローチしまして広告について相談しました。すると、かなり広いスペースを3回載せてくれるということになり、たった十数万円ですけれども特集広告を掲載することができました。こういうかたちで小岩井先生のストーリーを書きまして先行パネル展についても告知しました。「立ち寄られた方にはもちろん本を差し上げますよ。」と広告記事に記載したのです。『愛知大学創成期の群像』を各自お持ちください。」と机に置いておきましたところ、2週間で200冊全部なくなったのです。松本つ

て凄い文化街だな、っていうのをあの場で感じました。そしてその結果、松本市美術館においても多くの人が集まっていただきました。もう一つのエピソードといえば、松本市美術館ではカメラマン篠山紀信写真展が開催されていたのです。これはオノヨーコとジョンレノンの写真です。ホームページに告知されていたものです。こちらは西洋人が写真展のついでに立ち寄られたところを写真におさめました。

小岩井学長のストーリーを過去に遡って振り返ろうということで作成した展示パネルですね。過去の史資料を調べていましたら、小岩井学長時の創立 10 周年に『愛知大学 10 年の歩み』が発行されており、そこからピックアップしたものです。こういうかたちで展示会の度に、新たなパネルを作成するのですが、『愛知大学 10 年の歩み』のなかに記載されていた「初代学長の決定」「愛知大学 10 年の歩み」が大変貴重な記事でありましたので公開パネルとして作成しました。

本間喜一先生が本学の創設者ですが、初代学長は林毅陸学長です。林学長は慶應出身者で慶應の塾長をなされていた方で、東亜同文会の理事でいらっしゃいました。

2015年 松本 初代学長の決定



林邸に赴かれると、折よく林博士も帰宅されたところであり、早速二階の一室に招けられた。本間氏は林博士の坐られる間ももどかしげに時候の挨拶もそこそこ「今日は是非とも御引受を御願いに上りました。事情は既に小岩井さんから御聞きのとおりであり、この際は是非とも初代の学長を御願いたいと思います」と切り出された。然し林博士黙然としてなかなか口を開かれようとはされない。林博士を除いては他に誰といって適当な人物が見当らない現在、本間氏も比処で引下っては、これまでの一切の計画が頓坐してしまう。先の見透しも危ぶまれてくる。本間氏はやや威儀を正し言葉を改めて「現在枢密顧問官という要職に居られる先生に対し、将来充分の見透しもつきかねる大学の学長を御願いすると言うことは、非常に御迷惑なことと思っておりますが然し東亜同文書院大学は廃校の手續中であり、同大学の内地再建も最早や不可能となった今日、書院大学のみでなく、海外にあった諸大学、京城や台北の大学の諸教授と合流して新しい構想の下に新大学を建て、戦争の犠牲となった海外からの引揚学生を先ず收容したいというのが私達の念願なのであります。それに先生も去る二月までは東亜同文会の理事であり、現在も私と共に同文会の清算人の一人となって居られる筈です。東亜同文書院大学、或は北京工業専門学校等から引揚げて来た学生達の将来に対して責任はないとは申されないでしょう」と、最早や容易なことでは後に退くまいとの気構えである。大学創立の途上においてこのような歴史的な場面が邸内で展開されている戸外からは早や、無心に鳴く蟬の声がしきりに聞えて来る。息詰る一瞬であった。

「学生の将来に対する責任」この一言に林博士は強く動かされたらしく、本間氏の言葉の終った後暫くたって漸く「よろしい。御引受けしましょう」と緊張の面持で承諾の返事を与えられた。



23

『愛知大学 10 年の歩み』は、愛知大学創立 10 年後に編纂され、小岩井学長が書かれています。「10 年たったら大学はどんなになっているだろうか？ こうもしなければならぬ、ああもなろうかと、大きな希望や期待や確信をもって考えたものであった。その 10 年目がとうとうやってきたのである。もちろん理想通りにゆかないことも少なくない。……そして 10 年目の今日、大学は着実な発展をとげ、当初に抱いた期待が決して裏切られていないことである。それはそれとして、10 周年を記念するにあたり、この辺で愛知大学の歴史を編纂しようということになった。開学の日はいよいよ昨日のようでありわれわれの思い出としてはまだ生々しいものがあるが、それを、いつまでも「言いつぎ語り継ぐ」こともできないし、最近の新しい学生達のなかには大いに誇ってもいい大学の沿革について全く無知のものも少なくない。歴史はいづれいつの日かは書いておきたい仕事である。早く資料を整理したり、保存しておく必要もあろう、というので学内に編纂委員会が設けられた。」

苦しい中で大学ができたにも関わらず創立 10 年の当時、大学の沿革を知らない者がいたということですね。現学生が愛大の歴史を知るかという「知るわけない。」ということになりますね。その辺りも、私たちがどう対応するのか、読ませてもらって感じたところでございます。『愛知大学 10 年の歩み』編纂後記に小岩井学長が次のように書かれています。

「一冊の書物すら持たされず追い返された海外引揚教授と学生との集まりであった愛知大学、その道こそ苦難の道であったと。「無」の上に「有」を築き上げたのである。「和」と「愛知」によって築き上げたのである。また「愛知大学は家

族的だ」といわれたものである。規模が大きくなると、このような美点はうすれがちであるが、これは将来とも長く育て上げたいものである。この 10 年が多少の波乱曲折もあったが、ともかくも「和」と「愛知」との特色ある愛知大学はしっかりと根を下した。しかし、愛知大学の前途には、なお幾多の困難がよこたわっている。これらの困難を克服して、一層充実した愛知大学に育て上げねばならない。」

今までこのようなかたちで展示会・講演会を全国展開しています。「後世に残る更なるブランド大学にしたい」との思いで、コンセプトは何でいこうか、どう戦略を練るか、ブランドアップにどうつなげるか、苦慮しております。

2015年 松本

愛知大学10年の歩み①



愛知大学は昭和21年の11月15日に創立された。われわれはこの日を創立記念日として、その翌年から毎年慶祝してきたが、それが今度で丁度10回目にあたる。

この10年という歳月は全く夢のようにすぎたという感じである。大学の創立が認可になり、いよいよわれわれの大学ができるのだというので希望に胸をふくらませたのはつい昨日のようにも思われる。当時われわれは、「10年たったら大学はどんなになっているだろうか？」ごろもしなければならぬ、ああもなろうかと、大きな希望や期待や確信をもって考えたものであった。その10年目がどうやってきたのである。もちろん理想通りにゆかないことも少くない。

……中略……

10年目の今日、大学は着実な発展をとげ、当初に抱いた期待が決して裏切られていないことである。それはそれとして、十周年を記念するにあたり、この辺で愛知大学の歴史を編さんしようということになった。開学の日のはつい昨日のようにわれわれの思い出としては、まだ生々しいものがあるが、それを、いつまでも「言いつぎ語りつく」こともできないし、最近の新しい学生達のなかには大いに誇ってもいい大学の沿革について全く無知のものも少くない。歴史はいついづかの日は書いておきたい仕事でもある。早く資料を整理したり、保存しておく必要もあらう、というので学内に十年史編さん委員会が設けられた。

……中略……

昭和31年11月15日

愛知大学長 小岩井淨

24

2015年 松本

愛知大学10年の歩み②



編纂後記

愛知大学が敗戦後の廃墟の中に誕生してから、早くも十年の星霜が流れた。この十年は、敗戦国日本のあらゆる人々にとって前道の道であった。況んや、一冊の書物すら持たされず追い返された海外引揚教授と学生との集りであった愛知大学の歩いた道こそ、まさに苦難の道であった。

愛知大学は、よくいわれるように、「無」の上に「有」をきずき上げたのである。「和」と「愛知」とによって、きずき上げたのである。また、「愛知大学は家族的だ」といわれたものである。規模が大きくなると、このような美点はうすれがちであるが、これは将来とも長く育て上げたいものである。この10年間は多少の波乱曲折もあったが、ともかくも「和」と「愛知」との特色ある愛知大学はしっかりと根を下した。

しかし愛知大学の前途には、なお幾多の困難がよこたわっている。これらの困難を克服して、一層充実した愛知大学に育て上げねばならない。

……中略……

又本学の為に尽瘁せられた故人の方々についても、その際に謝意を表したいと考えている。なお編集委員は、鈴木拓郎、久岡神昇、松葉秀文、大石岩雄、三好四郎、細迫朝夫、川越淳二、一条雄司、内山正夫、川崎一郎、長谷川雄一、浅野巧美、赤松幹夫、田中清、岩井達である。

25

① プロデュースにあたり、全体像として捉えること

1. コンセプトは何か、戦略はどうするか
2. 大学広報の一端を担うことと考え、大学ブランドアップにどうつなげるか
3. 先輩方の思いが引き継がれており、次に継承するためにどうするのか
4. プレッシャーのなか、日々上積みし前進していくこと＝「継続は力なり」

② 具体的対応にむけて、検討したこと

1. 愛知大学を後世に残る、更なるブランド大学にする。
2. イメージ戦略のひとつ、「東亜同文書院45年+愛知大学70年」＝歴史ある大学を刷り込ませる。
3. コレクション、過去の情報等をわかりやすく、具体的に発信する。



今回はちょうど創立 70 周年記念事業ですので「東亜同文書院の 45 年 + 愛知大学の 70 年」と、分かりやすく具体的に発信することに致しました。大学記念館所蔵のコレクションも多くあり、「死蔵にすることはよくない」との声もよく言われます。広く紹介する機会と捉え「愛知大学記念館所蔵コレクション展」という副題をつけ、「日本人著名作コレクション」「中国人著名作コレクション」に区分けして展示をしております。また、愛大の歴史がわかる写真パネルも数点展示しております。

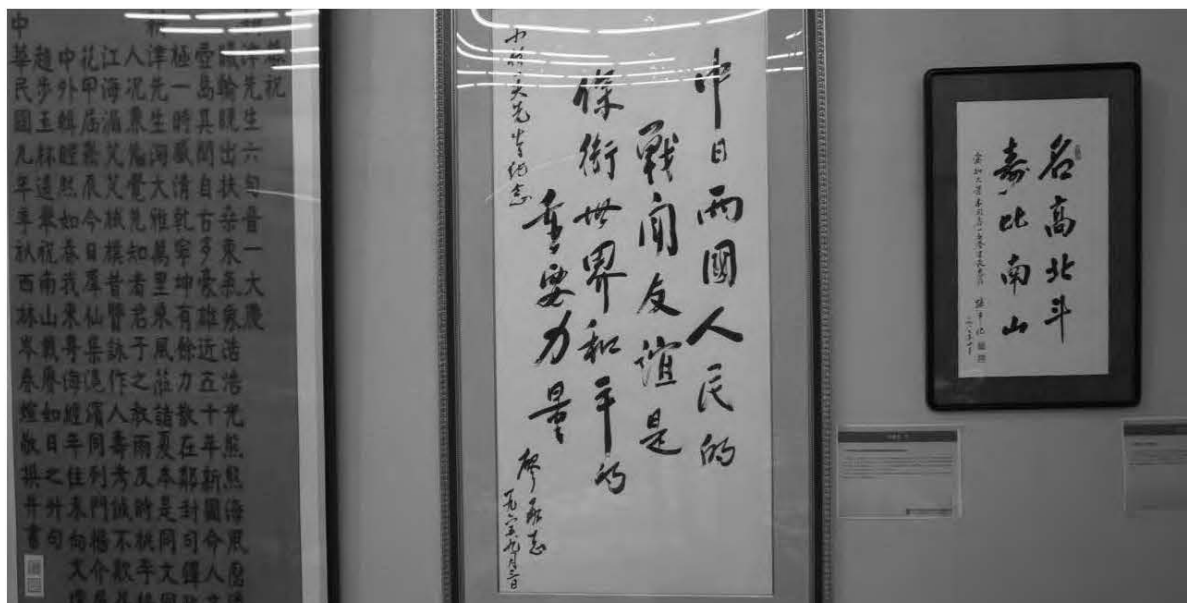
③ 名古屋市博物館〔ギャラリー 7〕への展示に向けて a. 全体レイアウト

- ・「愛知大学記念館コレクション展」と「東亜同文書院から愛知大学へ」の2部構成とする。
- ・そして、2016年が本学の創立70周年であることから「東亜同文書院の45年 + 愛知大学の70年」と題したキャンペーン企画とする。
- ・メインエリアを「愛知大学記念館コレクション展」、つづいて「東亜同文書院の45年 + 愛知大学の70年」とする。
- ・「愛知大学記念館コレクション展」は、「日本人著名作コレクション」と「中国人著名作コレクション」の2部構成とする。
- ・年別別に配置するとともに、キャプション解説の充実をはかる。



28





もう一つご紹介したいのが、愛知大学公館です。恐縮ですが、愛知大学公館に行かれた方、手を挙げていただいてもよろしいでしょうか。ありがとうございます。愛知大学公館を撮影してまいりましたのでDVDを見ていただきながら、解説させていただきます。

これが愛大公館でございます、設立当初、本間先生ほか多くの先生方のお住まいでありました。豊橋校舎から歩いて15分ぐらいのところにあります。こちらも豊橋市の指定文化財になっており、10月に「愛大公館 100年物語」と称して公開致しま



愛知大学公館 100年 物語

愛知大学豊橋校舎からは近い場所にある愛知大学公館は、1912年(明治45)年5月に陸軍第十五師団長官舎として建設され、今年で104年を迎えました。1917(大正6)年に師団長となった久邇宮邦彦王の娘である良子女王(のちの昭和天皇皇后)もこで少女時代の時期を生活されました。1925(大正14)年に第十五師団が廃止された後は、陸軍教導学校予備士官学校長の官舎などに使われましたが、1946(昭和21)年に愛知大学が創立されてからは、学長をはじめ教職員住宅として、その後は外来教員の宿舎として二十数年前まで使用されてきました。

洋館と和館を巧みに折衷した造りとなっているこの建物には、暖炉などが残っており、レトロな雰囲気を今に伝えています。

百年前の意匠を今に伝える
巧みな和洋折衷建築

す。2年前に公開しましたら2日間で1,000名の方が立ち寄られました。ご興味がありましたらチラシも入れておきましたので、豊橋市までお越しいただけたらと思います。この公館を外から見ると和洋折衷の建物となっております。

当初は陸軍15師団長官舎であり、昭和天皇の皇后になられた良子(ながこ)様のお父様、久邇宮邦彦王(くにのみやくによしおう)も、師団長をなされていたときにお住まいになられていました。天皇家との関係も深くドアの取っ手が「菊の紋」になっております。大理石の暖炉もなかなか凝っています。100年以上前に建てられたと考えると考え深いものに感じます。本学創立後、1980年代までは利用されていましたが、ここ数十年間は、利用せず閉館状態でした。2年前の2013年に築100年ということで、せっかくの機会だか

本日、東亜同文書院大学記念センター
事業について紹介させていただきますし

ご清聴あ
りがとうご
ざいました。

「東亜同文書院大学から愛知大学へ」展示会・講演会

- | | |
|-------|-----|
| 2006年 | 横浜 |
| 2007年 | 東京 |
| 2008年 | 弘前 |
| 2008年 | 福岡 |
| 2009年 | シカゴ |
| 2009年 | 神戸 |
| 2010年 | 京都 |
| 2010年 | 米沢 |
| 2010年 | 名古屋 |
| 2011年 | 富山 |
| 2012年 | 沖縄 |
| 2013年 | 長崎 |
| 2014年 | 岐阜 |
| 2014年 | 広島 |
| 2015年 | 松本 |
| 2016年 | 名古屋 |
| 2017年 | 浜松 |

[illegible]

愛知大学東洋大学共済大学センター内 私立名古屋学院短期大学文芸学部

東亜同文書院大学から 愛知大学へ 長崎展示会・講演会

7月26日 14:00-15:15

有識者講演会

7月27日 14:00-15:15

講演会

7月28日 14:00-15:15

講演会

7月29日 14:00-15:15

講演会

7月30日 14:00-15:15

講演会

7月31日 14:00-15:15

講演会

8月1日 14:00-15:15

講演会

8月2日 14:00-15:15

講演会

8月3日 14:00-15:15

講演会

8月4日 14:00-15:15

講演会

8月5日 14:00-15:15

講演会

8月6日 14:00-15:15

講演会

8月7日 14:00-15:15

講演会

8月8日 14:00-15:15

講演会

8月9日 14:00-15:15

講演会

8月10日 14:00-15:15

講演会

8月11日 14:00-15:15

講演会

8月12日 14:00-15:15

講演会

8月13日 14:00-15:15

講演会

8月14日 14:00-15:15

講演会

8月15日 14:00-15:15

講演会

8月16日 14:00-15:15

講演会

8月17日 14:00-15:15

講演会

8月18日 14:00-15:15

講演会

7月26日 14:00-15:15

有識者講演会

7月27日 14:00-15:15

講演会

7月28日 14:00-15:15

講演会

7月29日 14:00-15:15

講演会

7月30日 14:00-15:15

講演会

7月31日 14:00-15:15

講演会

8月1日 14:00-15:15

講演会

8月2日 14:00-15:15

講演会

8月3日 14:00-15:15

講演会

8月4日 14:00-15:15

講演会

8月5日 14:00-15:15

講演会

8月6日 14:00-15:15

講演会

8月7日 14:00-15:15

講演会

8月8日 14:00-15:15

講演会

8月9日 14:00-15:15

講演会

8月10日 14:00-15:15

講演会

8月11日 14:00-15:15

講演会

8月12日 14:00-15:15

講演会

8月13日 14:00-15:15

愛知大学と岐阜県立大学文化芸術センター 文庫科書庫蔵古文書展覧会開催決定

愛知大学と 岐阜県立大学 東亜同文書院大学

〇会場 (左側 中津川町)

愛知大学ヒストリーと文庫
東亜同文書院大学
 文庫科書庫蔵古文書展覧会 (岐阜県立大学文化芸術センター)

〇開場 10:00~16:00

愛知大学と岐阜県立大学文化芸術センター
 文庫科書庫蔵古文書展覧会 (岐阜県立大学文化芸術センター)

〇開場 10:00~16:00

愛知大学と岐阜県立大学文化芸術センター
 文庫科書庫蔵古文書展覧会 (岐阜県立大学文化芸術センター)

〇会場 (右側 岐阜市)

愛知大学ヒストリーと文庫
東亜同文書院大学
 文庫科書庫蔵古文書展覧会 (岐阜県立大学文化芸術センター)

〇開場 10:00~16:00

愛知大学と岐阜県立大学文化芸術センター
 文庫科書庫蔵古文書展覧会 (岐阜県立大学文化芸術センター)

〇開場 10:00~16:00

愛知大学と岐阜県立大学文化芸術センター
 文庫科書庫蔵古文書展覧会 (岐阜県立大学文化芸術センター)

2014年5月17日(土) じゅくろふプラザ (岐阜県立大学文化芸術センター)

愛知大学 岐阜県立大学文化芸術センター 文庫科書庫蔵古文書展覧会開催決定



東亞同文書院大学が島斐知大学へ 広島県立美術館 合同展覧会

2014年10月21日（火）～26日（日）
広島県立美術館 企画・協賛

11月7日（日） 講演会
講演 尾崎士郎先生

11月21日（土）
開館 尾崎士郎先生

11月15日（土）
開館 尾崎士郎先生

11月15日（土）
開館 尾崎士郎先生

11月15日（土）
開館 尾崎士郎先生

東亜同文書院大学が島斐知大学へ
広島県立美術館 合同展覧会

東亜同文書院大学が島斐知大学へ
広島県立美術館 合同展覧会

東亜同文書院大学が島斐知大学へ
広島県立美術館 合同展覧会

東亜同文書院大学が島斐知大学へ
広島県立美術館 合同展覧会

東亜同文書院大学が島斐知大学へ
広島県立美術館 合同展覧会



東亜同文書院大学が島斐知大学へ
広島県立美術館 合同展覧会

[illegible][illegible]